

オ-タムフェスタ2010 in 京都

「芸術にみる戦争と平和」

9月4日(土) 講演: 川田忠明さん

☆9月4日(土)日、まだまだ強い日差しの中、恒例のオ-タムフェスタ2010が京都平安会館で行われました。☆今回は講演が2つあり、そのうちのひとつは川田忠明さんの「芸術にみる戦争と平和」と題しての講演を紹介いたします。

核

兵器のない世界をめざしての5月のNPT再検討会議の熱気がまだ残っているような気がしますね。ちょうど一年前アメリカオバマ大統領のプラハ発言がありました。これが世の中の雰囲気を変えたように思えるのですが実はそれ以前からアメリカ社会は変化していました。映画「アバタをみましたか」監督はジェームスキャメロンさん。この映画はイラクに行っている兵士にみてもらいたいという思いで製作されました。武力で奪われる先住民の側からミサイルを撃たれる先住民の側から描かれています。キャメロンさんはアバタのフロモーションで日本に来られた時、二重被爆者山口輝さんに会っています。アバタはアカデミー賞候補となりますがメッセーj性を持った作品が候補となるのは今まで考えられませんでした。

玉

ニューヨークのメトロポリタニアン劇場で上演されました。これは原爆批判の作品です。メトロポリタン劇場といえはプログラムの裏には寄付をした名だたる企業名が印刷されておりいわば裕福な親戚がたの劇場です。ところがこの作品がまる暗な中で「水を下さい」「谷口さん助けて下さい」という場面が終ると全員立ちの拍手でした。原爆投下で戦争がはやく終ってよかったといっていた頃とアメリカはオバマ大統領が核兵器のない世界をと言わせるをえなかつたその世論が大事なのです。

抑

連総長のパンギムンさんは広島、長崎を訪れ被爆者と会って直接話を聞きます。その想像をはるかに越えるものをみた時、核兵器のない世界を實現する決意を新たにされるわけですね。私たちは多くの署名を国連に届けました。一筆一筆の署名は大きな意味をもってあります。名前、住所を書くことには大きな抵抗があります。それにもかかわらず書いてくれた。その人たちの声、被爆者の声を届けること、個人々々を動かし世界の声となります。今、核兵器廃絶条約に反対しているのはアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、日本は棄権です。この状況を愛えることが大事です。

ド

抑止力とはラテン語でテロからきていて脅しです。北朝鮮から日本を脅かしてあう。なんとなく理屈が成立するようすが戦争では成り立たない。そんな準備しているならこちらから先に仕掛ける。対立の悪循環です。ではどうすればいいのか？戦争は損害だという状況を作ることです。イラクの戦争をやった国を支援した国は世論の力で政権交代させられています。沖縄の米兵は出張訓練で沖縄を離れることが多く何かあってもすぐかけつけることにはできません。ドイツの女性画家ケリー・ユルヴィツリ彫刻「ピエタ」が小淵沢のフィリア美術館に展示されています。私たちは作者がいなくなってもその作品に込められたメッセーjジを見抜き自分の中に取り込みより多くの人たちに平和へのメッセーjジを広げることが出来ます。音楽！世界が変わっていく時音楽が変わります。フランス革命の時、文字を讀めない人に伝えるニュースを歌、合唱曲で広げていきました。マイケルジャクソンのヒール・ザ・ワールドの歌詞の中に旧約聖書の一語がひびきます。「諸国家が剣を脚に変えるのを見よう」作者がいなくなってもその作品からみえてくる平和へのメッセーjジ。人々を鼓舞する音楽の力。さまざま視点からみえてくる平和をこの講演で知りました。